

ごあいさつ



理事長
平賀 巖

組合員の皆様には平素より当土地改良区の業務運営全般に亘り格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
また、各行政機関並びに各農業団体各位には、各般に亘る土地改良事業の推進にご懇切なるご指導、ご配慮を賜り、衷心より感謝申し上げます。

昨年の当地域は災害もなく、春からの適宜な降雨に恵まれ用水供給は順調に推移する中で終了し、水稻の作況指数は百二のやや良という出来秋を迎えることが出来ました。

当土地改良区の平成二十八年度に計画された各事業は、国の第二次補正予算において前年度補正を大幅に上回る措置がなされたことから、概ね計画どおり進めることができました。

さて、当地域は、担い手等の育成とコスト削減、転作作物の導入を中心に大区画化・暗渠排水に取り組んできましたが、整備から既に三十数年を経過する地区も多く、用排水施設の整備・維持補修に努めてきたものの、経年劣化が進み、生産拡大の支障となってきました。

また、担い手等への農地集積が進み、大規模土地利型農業の進展に伴い、大型農業機械の導入と新規需用米の生産拡大により、用水の必要水量や必要時期に変化が生じています。

ピーク分散・作業標準化から生じる用水の前倒し・後倒し使用が必要となってきましたが、用水対応には限界もあることから、長期的には、水利権の変更の検討も不可欠であります。基幹的な用排水路については、更新・補修を実施するとともに、老朽施設の調査を進め、「農地・水・環境保全組織」と連携した用排水路の補修・更新に努めて参ります。

国は、昨年八月に新たな「土地改良長期計画」を策定し、野菜・果樹等の高収益作物への転換による豊かな農業・農村の実現を目指し、土地改良事業を計画的かつ効率的に実施するとしています。

今後の土地改良のあり方として、所得の向上等をもたらす、力強い農業を牽引できるような更なる深化が求められています。ICT技術を活用した生産コスト管理の高度化やクラウドの活用による農業経営支援等を、関係機関と連携しながら積極的に進める必要があります。

また、昨年改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」の中に、新たに「農業競争力強化プログラム」が大きく位置づけられました。農業者の努力のみでは解決できない構造的な課題に対する取り組みの道筋を示すとともに、土地改良制度の見直しを進めることとしています。

これら施策を着実に推進するためには、予算の確保が重要です。国の二十九年度当初予算は、前年度比百二十パーセントとなる四千五百八十四億円が措置されましたが、新規地区の早期着工等の計画的な事業推進には、補正予算に頼らない当初予算の回復実現が急務となります。組織を挙げた一層の活動の展開が重要と存じます。

水田経営が中心の当地域の農業を将来に亘って、しっかりと下支え維持していくためには、各種の新たな農業施策の展開と軌を一にした土地改良の実施に積極的に対応していくことが重

要です。このため、実施中の県営ほ場整備事業四地区の早期完成と未整備地区及び再整備を望む七地区の計画調査、合意形成を急ぎ、早期事業着手を目指して参ります。

国営かんがい排水事業「豊沢川地区」については、事業主体である豊沢川農業水利事業建設所の事業推進に積極的に協力し、早期改修によるダムの安全管理と農業用水の安定供給を図ります。小水力発電施設については、東北電力株式会社と先に電源接続案件募集プロセスの開始を公表し、系統連携に遅れが生じる懸念があることから、関係機関と連携し、早期完成を期します。

農業経営が大きく変貌していく今、土地改良区の健全・効率的な運営を図るためには、経費削減と経費を負担する組合員の理解と協力が重要です。組合員のコスト意識が高まる中、土地改良区が自らの経営状況を客観的に分析し、的確な費用を把握できる会計処理が必要と判断し、平成二十九年度から複式簿記方式による会計を導入することといたします。

安全・安心な食料の生産基盤である農地の整備と農地の動脈とも言える農業水利施設の適切な維持管理は土地改良区に課せられた基本的な使命であります。これを着実に果たすために、組合員はもとより、関係行政機関、各農業団体と密接な連携を図りながら、事務事業の推進に役職員一同、一層の努力を傾注して参る所存でありますので、よろしくご協力下さるようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、本年も無災害で安全な農作業をもって豊穡の年でありますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

「三年目を迎えて」

東北農政局 和賀中央農業水利事業所
豊沢川農業水利事業建設所長 木村 俊逸



平賀理事長をはじめ、豊沢川土地改良区組合員の皆様には、平素より国営「豊沢川地区」の事業推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

山々は新緑の芽吹きとともに雪解けが進み、豊沢ダムは満水位からの取水開始となりそうです。

さて、当建設所は平成27年8月に開設され、早くも三年目を迎えることとなります。工事の方も順調に進んでおり、発注済みの工事は、①工事用道路（その1）工事（施工延長：L=380m、請負者：菅原建設（株）、工期：H28.7.21~H29.6.15）、②工事用道路（その2）工事（施工延長：L=186m、請負者：岩田地崎建設（株）、工期：H29.3.14~H30.2.28）となっております。

また、今後は豊沢ダム基礎排水孔工事及び取水塔周りの堆積物撤去工事を9月頃に発注する計画です。

これからも安全に留意し、事業効果の早期発現を目指して工事を進めて参りますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年度工事計画

